
底辺のコドモ

チャーリー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

底辺のコドモ

【Nコード】

N7409R

【作者名】

チャーリー

【あらすじ】

あるコドモが不良のお道を行くと決めた動機。

（前書き）

とりあえず打ってみた。

ああ、何で俺はこの星に生を受けたのだろう。

俺が生きていようがいまいが、世間という大きな運命は変わらないのに・・・

みな同じようなことを言う。

「人間には無限の可能性がある。」とか、

「やってやれないことはない。」

確かにそれは成功するには欠かせない要素だろう。

でも成功したいと思わない人に押し付けるのはどうかと思う。

キリストは信じるがイスラムは信じないように、すべてのヤツがこのことを信じるはずがない。

バカで熱い大人達はそんなことを言う連中は屁理屈だと言って、説教だの暴力で弾圧してくる。

治安維持法よりよっぽどたちが悪いわ。

このことを親に言ってみたら、

「私はお前をこんなふう育てたつもりはない！」と言ってきた。

しまいには、自分の理想像に近づくための課題を押しつけてくる。

「夢」

「何、それ、美味しいの？」状態の俺には何にも響かない。

響くどころか、心の中に不協和音としていつまでループし続ける。

このモヤモヤは一体何なんだ。

「命」

この世で一番大切なモノだ。

世間の常識的に言われているが、はたしてそうなのか？

元になつき親に叱られたとき、自身の最期を感じた。

このまま死なせてくれればどんなに楽だっただろうか？

なのに、

「私にはお前を独り立ちさせる責任がある。」といって、

手すら出さなかった。

そんなのは建前に決まっている。

本心は

（ちゃんと育てないと、世間で顔が立たない。）

とでも思っていたんだろう。

昔の中国で性善説を言ったおっさんがいたけど、今の「人」は人間じゃないとかあっちでぼざいてそうだな。

こんな世の中生きていても無駄だ。

いつそ、人間たちの下らないレツテルを張るために俺が動かないといけないのだろうか？

何のために・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7409r/>

底辺のコドモ

2011年10月8日01時13分発行